

2次元治療計画（マンチェスター法）による子宮頸癌 RALS 治療成績 —後方視的、単施設検討—

1. 研究の対象

2004年1月～2013年12月までの間に秋田大学放射線治療科で、子宮頸癌に対して RALS (Remote After Loading System) による放射線治療（腔内照射）が開始された方。

2. 研究目的・方法

(1) 目的

子宮頸癌に対する放射線治療は、『子宮頸がん治療ガイドライン』など各国のガイドラインでも記載されている有用な治療選択肢のひとつです。腫瘍の状態や全身状態などに応じてですが、体の外から放射線を当てる治療（体外照射）に加えて、子宮腔内にアプリータという筒を留置し、この筒の中を放射性物質（イリジウムなど）を通過させることで体内から放射線を当てる治療（RALSによる腔内照射）を行うことができます。腔内照射を行うことで、腫瘍へ体内から集中的かつ効率よく放射線を照射することが可能となります。

RALSでは、アプリータ留置後に2方向のレントゲンを撮影して治療計画を行う方法（2次元治療計画、マンチェスター法）が広く用いられてきており、当院でもこの方法で治療を施行してきました。近年では、腫瘍状態や正常臓器との位置関係をより正確に把握するため、アプリータ留置後にCTやMRIを撮影して治療計画を行う方法（3次元治療計画）を行う施設が増えてきています。本研究は、当院が今まで施行してきた2次元治療計画法の治療効果を後ろ向きに解析することで、従来の計画方法の治療効果や有害事象を把握し、今後のRALS治療に還元していく目的で行います。

(2) 方法

解析対象となるデータ（画像検査、放射線治療方法、生存情報など）は、カルテ情報、画像検査情報から収集するものとし、本研究実施にあたって追加で受けていただく検査、治療はありません。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病歴、投薬内容、放射線開始前後での症状の変化、画像検査結果、放射線治療の部位や放射線線量 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒010-8543 秋田県秋田市本道1-1-1

秋田大学医学部附属病院 放射線治療科

Tel: 018-834-1111 (病院代表)

研究責任者：高木 倫子

-----以上